

# 1-7 石積護岸のハビタットとしての機能形成

ハビタットとは？

ハビタット(生息場) = 生息基盤 + 利用状況からみた機能

改修前の直立  
護岸直下:

捨て石上のマガ  
キを基盤とする  
ハビタット

改修前の護岸直下のハビタット

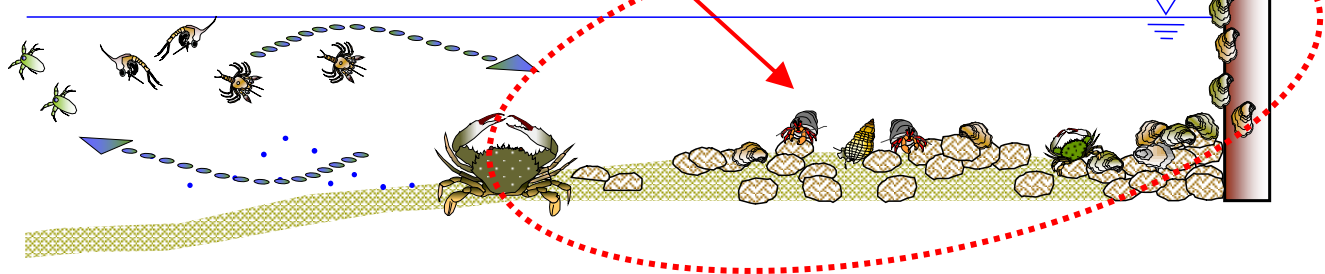
生息基盤: 捨て石、捨て石に付着するカキ、鋼矢板

主な機能: 潮間動物の生息場(採餌、休息、幼体の成育場等)

イボニシ、ウミウシ類等の産卵場

ヤドカリ類・カニ類等の小型甲殻類の生息場

ハゼ類・ギンポ類の採餌場、隠れ場、幼稚魚の成育場



石積護岸へ改修

新たなハビタットと  
しての機能の形成

H. W. L. AP+2.10m

高潮帯

L. W. L. AP+0.00m

中潮帯

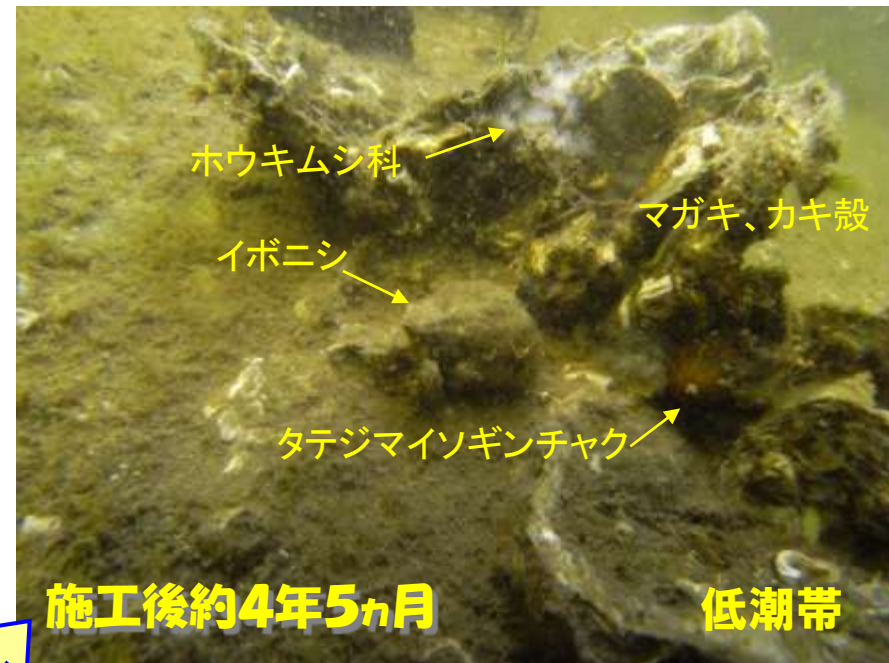
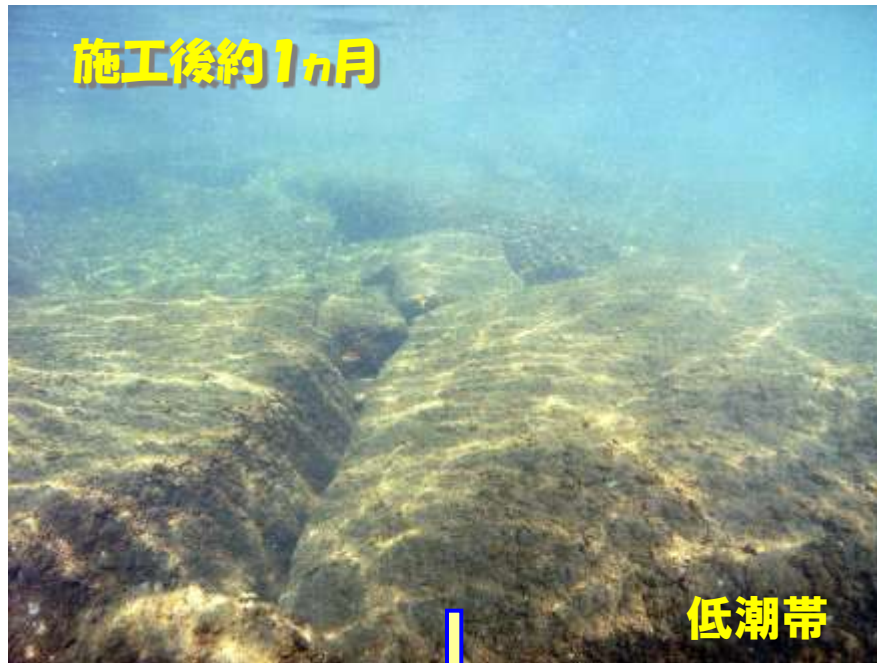
低潮帯

潮間帯

石積護岸

捨て石

# 石積護岸のハビタットとしての機能形成(4年間の状況)



## (1) ハビタットとしての基盤の形成 マガキの着生と増加


- 初期段階より着生。以降、着実に被度が増加。他の生物に生息空間を提供
- 施工後約1年後には、マガキの被度は40～50%に達した。中潮帯では3年5ヵ月後より、マガキの被度が低下した(世代交代の過程と考えられる)。
- マガキを基盤として他の生物(イボニシ等)が定着。



# 石積護岸のハビタットとしての機能形成(4年5ヵ月～4年8ヵ月後の状況)

## (2) 生息空間としての機能

**施工後約4年5ヵ月** **高潮帯**

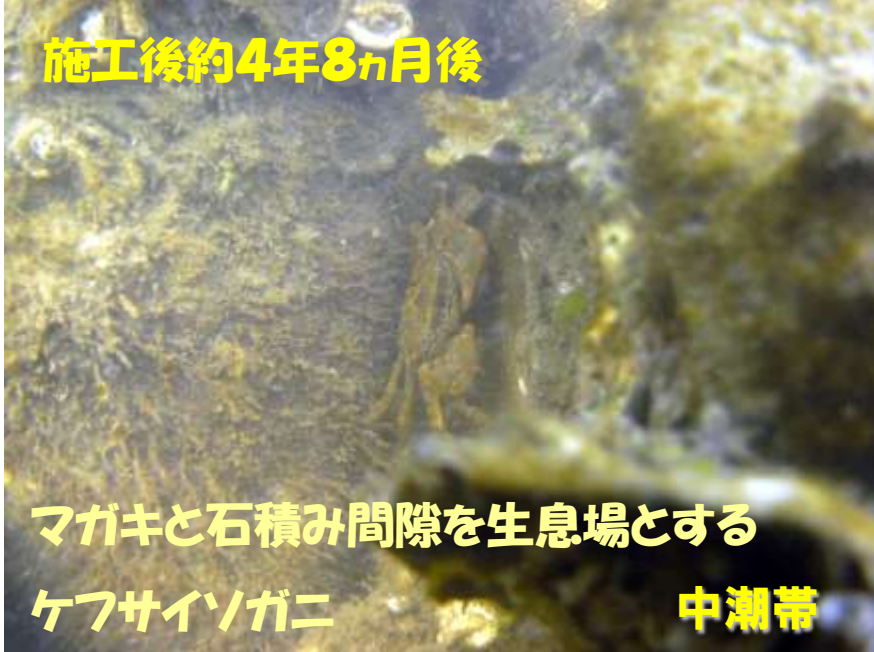


**施工後約4年5ヵ月**



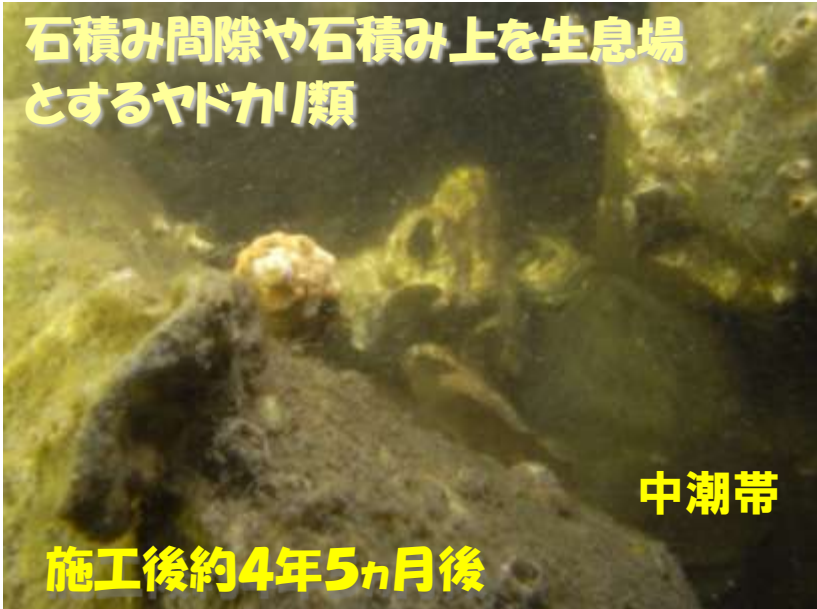
高潮帯では施工前に優占していた、  
タマキビガイやイワフジツボが優占して  
確認されるようになった。

**施工後約4年8ヵ月後**



マガキと石積み間隙を生息場とする  
ケフサイノガニ **中潮帯**

石積み間隙や石積み上を生息場  
とするヤドカリ類

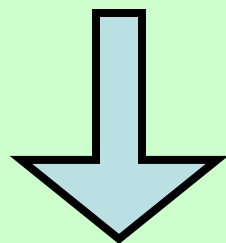


**中潮帯**  
**施工後約4年5ヵ月後**

# 個別目標：環境・・・・・・・・・・周辺生態系の保全

## 目標達成基準2

周辺海底地形に洗掘等の著しい変化が生じないこと。



地形調査結果及び底質（粒度）調査結果から検証を行う。

※検証・評価は、H23年夏季～秋季のモニタリング調査後に行う。

## 2.海底地形及び底質の調査結果

### 2-1 調査実施状況

護岸改修前後の時期	調査年月
施工前	平成18年 4月
施工後約1ヵ月	平成18年 9月
施工後約8ヵ月	平成19年 4月
施工後約1年	平成19年 8月27日～9月 3日
施工後約1年 (台風9号通過後)	平成19年 9月18日 (測量3測線のみ、底質1測線のみ)
施工後約1年8ヵ月	平成20年 4月
施工後約2年	平成20年 9月
施工後約2年8ヵ月	平成21年 4月
施工後約3年	平成21年 9月
施工後約3年8ヵ月	平成22年 4月
施工後約4年	平成22年 9月
施工後約4年8ヵ月	平成23年 4月

### 2-2 調査方法

- ・地形調査は音響測深器による深浅測量、及び汀線測量による。
- ・底質調査は、ダイバーによる表層砂泥採取、粒度試験を行う。